

第6回小金井市保育検討協議会 意見・提案シート

提出日 平成27年10月22日(木)

意見・提案内容(全1件)

①

・資料12(認可保育園に施る1人当たりコスト公民比較)により、こども1人当たり年60万円市財政に負担が生じているという見方は間違っています。(事務局は、この辺りの正確さは担保して欲しいですが)。これは、そもそも国庫負担金であったものが、10年前に保育関係者の強い反対を押し切って、一般財源化されたものです。ですから、公立保育園に対しての国庫負担金は0円と示されています。市立保育園に対して、以前は市独自の増面配置(2階建て保母など)がありましたが、そういったものは無くなっています。要支援児についても、以前は子ども2人に正職1名の配置でしたが、これも非常勤化されているというように、市の支出は減っています。

・資料17の(1)にあります“保育所の配置主体に応じた～”で述べられている“設置主体は公立と民間”とひとくくりにされていますが、“民間”ではなく、設置主体は社福、NPO、企業、個人、学校法人などとなる筈です。そういった設置主体毎の保育の現状の分析をするには、事務局側から相当な、そして適格な資料が出されない限り、無理なのではないでしょうか。財政(決算)資料でも、市としては私立園に強制できないという話が運営協議会で事務局から出ましたが、その辺りがきっちり出ないことがわかっているなら、比較は無理と思います。

・私立保育園に務めています。誇りを持って仕事をしています。けれど、私立園には法人の考え方によって素晴らしい保育をしている園と、理事や施設長などが私腹を肥やすなど、問題のある園との開きは大きいです。その意味で、公立園というのは、自治体としてのスタンダードを表すというのが最大の役割ではないでしょうか。新制度になり、自治体の裁量で保育の基準が決められるようになりましたが、小金井はほとんどが国基準通りであり、それ以上の上乘せはされていない筈です。ですから、特別に保育に手厚くしているとは思えません。(公立だからこそ連帯園となるなどすることが、“公立園の役割”で、これをしていきますよ、と胸を張って言えると思いますが)

※保育ママさんのお休みの時の保育は、公立園が保障していますよね？

・小金井では公立5園、私立6園という約半々で保育を担ってきた時期が長かったのですが、この間の待機児童対策で私立園が増え、しかも新制度の枠外の認証保育園や保育室、新制度の中でも認可であっても地域型など様々な形態が続々と造られている中で、公立5園が基幹園としての役割を果たすとしても荷が重過ぎる位だと思います。

・民営化、やっている理由は100%財政面なのですね。保育の質を上げる為ではな

い訳ですね。(逆に言うと、公立の保育の質は、十分に良いと言っているとも取れますね。)

・資料19の事業内容ですが、子育て支援施策として大変意義のあることを人員の少なくて忙しい中で行っていて大変ですが、公私格差是正制度が、サービス推進費に変わってしまったので、やらないと都の補助金がもらえなくて、ただでさえ大変な運営が、もっと大変になってしまうという面もあります。